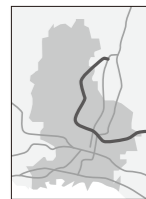


巡礼道

～ご利益を求めて歩く道～

平安時代末期ごろ、観世音菩薩が33の姿かたちで民衆を救うという教えにちなみ、33カ所の霊場が札所として定められました。悩みを払い、ご利益を求めて札所を巡る巡礼は、室町時代に民衆の間に広まると、江戸時代には一段と発展し、元禄年間(1688年～1704年)には大衆化したといわれます。この33カ所の霊場を巡る経路を巡礼道といいます。播磨には第26番札所一乗寺(法華山)、第27番札所円教寺(書写山)があり、丹後の第28番札所成相寺に続いています。現存する納札を調査すると、下総や武蔵、山城、長門、肥前からやってきた巡礼者のものが多く残っており、関東や九州など全国から人が訪れていたことが分かります。



播磨にある二つの札所



第26番札所 一乗寺(法華山)

一乗寺は白雉元年(650年)に、法道仙人が開創したと伝えられています。もともと現在地より約3km北にある古法華自然公園内にあったといわれ、今もそこに残る石造浮彫如来及両脇侍像(白鳳時代・通称:古法華石仏)は、当時のものだといわれています。国宝・三重塔の相輪伏鉢には承安元年(1171年)の銘があり、遅くとも12世紀後半には現在地に移ったことがうかがえます。

第27番札所 円教寺(書写山)

平安時代、仏教の拠点比叡山や高野山に代表される山岳寺院へと移り、厳しい自然条件に耐えながら修行する僧たちは「山寺の聖」と呼ばれるようになります。法華経を暗誦する聖の中で、ひときわ抜きん出た存在が書写山を開創した性空上人です。性空上人は康保3年(966年)に書写山を開いたといわれ、天禄元年(970年)には現在の摩尼殿が建立されました。寛和2年(986年)に花山院が行幸された際には、円教寺の寺号を賜り、大講堂が建てられました。西の比叡山と称され、史跡に指定されている境内には25件の指定文化財があります。

